

謹賀新年



明けましておめでとうございませう。

昨年を振り返ってみると、七月に開催されたロンドンオリンピックでの日本選手団の活躍が明るい話題ではありましたが、昨年の東日本大震災からの復興も思ったように進まず、電力需給の逼迫から全国民が節電に努める夏を過ごしました。また、経済状況も一向に上向き気配も無く、尖閣国有化に反発する中国での日系企業への暴動等々、正に内外ともに一年でした。

長野県北部地域で大きな被害を受けた栄村においては、道路、水田、山地等の復旧に全力を挙げてこれに取組み、村の復興計画も策定されました。また、秋には村内十五箇所に震災復興住宅三十一戸も完成し、ようやく復興へむけ第一歩を踏み出したという感じですが、今後は、震災を乗り越え、集落に子どもたちの声が響く元気な村を一つにむけ、着実に進んでいっていただきたいと願っています。私共も震災により再び

認識した、人と人との支えあいや絆の大切さを忘れることなく、地域を支えていくことこそが市町村、県、ひいては国家の繁栄に繋がると信じてやみません。

また、北陸新幹線飯山駅開業は、北信六市町村のみならず、県境を越え広域観光として発展する絶好の機会です。それぞれの自治体特色ある街づくり、地域づくりに汗をかき結果として広域全体が繁栄することが重要です。

地域には様々な課題がありますが、日々努力し、これらの解決に向け邁進する所存です。今後とも、県民生活の安全・安心の確保のため、一生懸命取り組んでまいります。

皆様方にとって差のない一年でありますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

阿部知事に要望書を提出 「25年度当初予算に対する要望書」



国の基礎が地方にあることを考えれば、長野県に軸足を置く私ども会派は、変らぬ長野県発展を第一として対応していかなければなりません。

12月15日、県政ながのとして平成25年度当初予算に対する知事要望を行いました。新5カ年計画・健康長寿・環境対策・観光戦略等、各分野にわたり73の要望をいたしました。

「長野県は経済状況は一層厳しさを増しており、高工賃光景、農林業をはじめ各種産業の閉塞は、世界的な経済や政治圧力の波の中で、辛抱よく努力を重ねています。このような現状を受け止め、知事の下に策定されております次期中期総合計画をはじめとする各種計画について、広くアンテナを掲げ長野県の潜在力を最大限発揮できるよう夢と方向性を示すとともに、中期総合計画の初年度にあたり財政的には慎重に、かつ、県民生活の安全、安定と県内経済の発展に向けて効果的な県政を運営されますよう要望致します。」

また、山口教育長・櫻井教育委員長、佐々木警察本部長にも要望書を提出しました。



「県政ながの」は県民の声を大切に

- ★各地区支部事務所は県民の広場です。気軽にお立ち寄りください。
- ★少人数のミニ集会でも県政報告に伺います。皆様の要望もお聞きし、県政に反映させます。

軸足を地元「長野県」に置いて

被災より念願でありました、三十二戸の村営住宅がこの度完成し、十二月二十六日、阿部知事はじめ大勢の皆様ご出席のもと竣工式が開催されました。村の復興計画も策定され、これを契機に復興に弾みがつくよう期待しています。

本格的な冬を迎える前に生活の基盤が整ったことは本当にうれしいことです。



六月定例議会において、知事、建設部長から「スキーシーズン前までには通行ができるよう最大限の努力をしていく」との答弁がありましたが、観光面でも一安心です。

飯山斑尾新井線が、一部片側交互通行ではあるものの降雪期を前に開通しました。

六月定例議会において、知事、建設部長から「スキーシーズン前までには通行ができるよう最大限の努力をしていく」との答弁がありましたが、観光面でも一安心です。



会派現地調査…下伊那西部・南部地区

十一月七・八日、二日間の日程で下伊那地域の町村等を視察しました。県境にあり中山間の飯水地域と同じ悩みを持つ当地は、大雪こそ降りませんが、ある面では我々以上の厳しい自然環境にあります。特に道路の整備は生活するうえで必要不可欠であり、また医療の充実や産業振興も大きな課題です。

十一月七・八日、二日間の日程で下伊那地域の町村等を視察しました。県境にあり中山間の飯水地域と同じ悩みを持つ当地は、大雪こそ降りませんが、ある面では我々以上の厳しい自然環境にあります。特に道路の整備は生活するうえで必要不可欠であり、また医療の充実や産業振興も大きな課題です。



9月定例議会一般質問から

○北陸新幹線を活かした観光振興について

●「信越9市町村広域観光連携協議会」への県の参画意義と具体的な支援について

(知事) 一体となった具体的な支援を行っていく。地域を中心に、この地域をどうして行くのかという構想をしっかり打ち立て、スピード感を持って取り組んで行くことが重要だ。

●新幹線の延伸を機に隣県各県との県境を越えた連携、広域観光の推進について

○栄村の復興支援について

●「栄村震災復興計画策定委員会」から村に対し、復興計画の最終案が報告された。村の主体的・積極的な取組は当然として、引き続き県のバックアップが欠かせないと思われる。策定された計画案の内容を中期総合計画の中にどのように盛り込むか。

(知事) 宮本議員は常に地域と一緒に復旧・復興に取り組む、ご尽力いただいた。改めて敬意と感謝を表す。復旧にとどめることなくしっかりと未来を見据えて復旧に取り組むことが重要だ。事業一つ一つが中山間復興のモデルとなるよう、県としても村と一緒に考え、新しい総合5ヵ年計画の中にもきちんと位置付けを行い、引き続き全力で支援していきたい。

○文化財の保存について

●小菅神社を守ってきた小菅集落は戸数が63戸で高齢化率が42.5%。大雪により神社が大きな被害を受け、修繕に3千890万円を要することになった。国から80%、県から4%、残りの16%を飯山市と地元が2分の1ずつを負担することとなっている。



飯新橋FTR看板



10.21 栄村文化祭

貴重な文化財は過疎地で高齢化の進んだ地域に多く存在し、地元はその保存と次の世代への引き継ぎに、大変苦勞している。今後の文化財の保存の在り方についてどのようにお考えか。

(教育長) 文化財の保護は、一体的には所有者が行うこととされているが、全てを所有者に求めていくことは大変困難な状況になっている。これまで以上に国・県・市町村・所有者及び地域の皆さんが連携・協力し、一体となって地域の宝である文化財を後世に継承していくことが重要である。

●県の補助費以上の補助率は、国庫補助残額の1/2以内であるが、重要な文化財を抱える地元の多くが、過疎化・高齢化しているという現状を踏まえると、補助率なり補助金額を見直すべきと考えらる。

(教育長) 補助対象になる指定文化財は増加する。一方、厳しい財政状況を反映し、県の補助金の予算は年々減少してきており、運用上の補助率も下がってきている。結果、所有者の負担が相対的に増大するため、文化財の修理等が先送りされ、文化財保護の取り組みに支障が生じるおそれもある。より公正な配分により所有者の負担を軽減し、安定的・持続的に文化財を維持・継承できるよう、現在補助制度の見直しを検討している。

●小菅集落の景観は、重要な文化的景観にふさわしく、文化庁の「文化的景観の保護制度」認定に向けて検討をすべきと考えが如何か。

(教育長) 平成22年度より飯山市が文化庁との事前協議や調査を進めてきた。本年度から補助を得て、正式に重要な文化的景観の認定を目指した調査及び保存計画の策定を開始しており、県教育委員会としても引き続きこの取り組みを支援していく。



11.25 小菅神社震災本館保存修復工事竣工式

11月定例議会一般質問から

○飯山新高の準備状況について

●飯山新校のグラウンドについて
●旧飯山市立第二中学校の校舎・体育館及び飯山市の給食センターの活用と南側の市道の付け替えについて
●市道を横断する際の安全対策について
●学生寮の建設については、平成23年2月定例会でも申し上げたが、その後約1年が経過した。検討結果、経過状況はどのようになっているのか。

(教育長) スポーツ科学科の全国募集を行っていることから、飯山高校には男子寮と女子寮がある。女子寮は飯山高校敷地内にあり、新高から遠いこと、男子・女子寮共に入寮者が半数以下である現状、既存施設の有効活用を図るという長野県ファシリティマネジメント基本方針を総合的に勘案し、男子寮を男女共同の寮とする方向で検討中。施設改修や管理運営体制等に関する課題等、学校からの要望に配慮しながら進めていきたい。



山口教育長・櫻井教育委員長と

●現飯山高校の跡地利用について、その後の検討経過について
●完全統合の準備について
●再編計画の中間総括をし、課題を精査したうえで次の段階へ進むことが必要ではないか。
(教育長) 現在中間点を迎えたので、その中間まとめを行っている。
●県内各地の特別支援学校の高等部が定員をオーバーし、ハード面、ソフト面でも大変な状況にあるが、このことも高校再編の影響を受けているものと思われるがいかがか。
(教育長) 特別支援学校への入学希望者には複数回の教育相談や体験学習を実施し、就学にかかわる要件の周知を徹底している。特別支援学校高等部は高等学校とは目的やシステムが異なる学校であるために、生徒数に直接影響はないものとする。なお、高等学校でも特別支援学級等からの生徒も幅広く受け入れている。

○支援の必要な児童・生徒に対する対応について

●「長野県特別支援教育推進計画」について。
●医療、福祉、労働等の分野における支援の在り方について
(健康福祉部長) 発達障害のある児童・生徒に対する主な支援として、医療分野においては小児科医や精神科医による診療、福祉分野においては児童発達支援、放課後等デイサービスにおける療育、労働分野においては障害者就業・生活支援センターにおける高校生への就労相談等の支援を行っている。こうした支援が相互に連携して行われることが重要であることから、全年代、全分野における発達障害者支援に精通し、教師等の支援者に総合的な助言を行う「発達障害サポート・マネージャー」を養成し各領域に配置するなどの体制を整備していきたい。

●個別支援手帳の普及の検討はどのようになっているのか。
(健康福祉部長) 個別支援手帳は、現在10市町村で導入されている。しかし、様式や運用方法が市町村によって異なっており、支援者の間で十分に認識や活用されていないのが現状である。

市町村を超えて様々な支援者が共通して活用できる様式やその運用方法について検討しているところであり、現在、その試行版を作成し、市町村担当者や発達障害者の家族の皆さんから意見を伺っている。今後、年度内には実際に使用できるものを作成し、講習会等を通じ県内全市町村や学校等に普及させたい。

●発達支援教育を専門に行う学校を設けて欲しいという多くの要望をうける。知事には、是非、目標年度の開設に向けて尽力いただくこと、そして、検討の過程を利用者や関係機関に対してできるだけ提供していただき、オープンな検討が行われるように強く要望する。

●エンカレッジスクールの取り組みについて

○家庭教育について

●国・地方自治体の家庭教育支援について



10.18 文教企業協会の創立飯山高等学校

活動あれこれ



9.15 JA飯山小中を代表大員



10.27 飯山57年水防会総行進式



11.16 大貫沢復興記念植樹 総行進式



12.20 戸沼温泉スキー場閉会



12.08 飯山地区スキー場安全点検